

はじめに

今日の社会は、構造や雇用環境が大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっています。このように急激に変化する時代の中で、一人一人のこどもたちが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが期待されています。我が国の学校教育は、多様なこどもたちの「深い学び」を確かなものにするるとともに、しなやかに「自らの人生を舵取りできる力」の育成が求められているところです。

こうした時代において当センターは、教師の学びの姿がこどもたちの学びの姿の相似形であることを踏まえ、変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶ「新たな教師の学びの姿」を研修及び研究を通じて実現するとともに、課題解決に向けた学校の取組を支援する「伴走者」でありたいと考えています。そして、本県に「学び合いのコミュニティ」を構築していくためには、私たち自身もまた、常に探究心を持ち、自律的に学び続ける組織でなければなりません。本研究紀要は、その一環として、職員一人一人が問いを立て研鑽を積んだ研究の結果を提案するものです。

「中堅教諭等資質向上研修のデザインを問い直す―受講者の学びの視点からの再整理―」では、受講者がより多くの学びや気づきを得て、日々の教育実践の変容へとつながられるよう研修構成を見直した過程や、実施後の研修担当者及び受講者の視点からの振り返りを基に、今後の研修デザインの在り方について考察しています。

「研修観の転換に向けた教職員の学びについての―考察―学び合う校内研修とは―」では、「新たな教師の学びの姿」の実現に向け、当センターが実施した「こどもを主語にした授業づくり研究開発事業」における「授業観・学習観の転換」及び「研修観の転換」に向けた取組の事後のアンケート調査や記述内容の分析を通じて、これからの校内研修における教職員の学びの姿について考察しています。

「ミドルリーダーの変容プロセスに関する研究―M-G T Aによる転換点の解明―」では、当センターが実施している「ミドルリーダー育成研修」の受講者にインタビューを行い、その内容から自身の在り方を変容させるに至ったプロセスを分析しています。

以上、本誌の内容が学校教育活動の活性化の一助となり、本県教育の更なる充実につながることを願うとともに、御高覧の上、忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

令和8年3月

和歌山県教育センター学びの丘
所長 福田 孝